

## 第5回加茂市都市計画マスタープラン策定委員会 意見対応表

No.	意見	対応	資料
1	将来像について、財政が厳しい中で、持続可能がポイントとなる。例えば、「愛着と誇りを次代につなぎ、居心地よく笑顔あふれるまち」が良い。	・いただいたご意見を踏まえ、将来都市像を 「愛着と誇りを次代へつなぐ 居心地よく笑顔あふれるまち 加茂」 に変更しました。	別紙 1
2	将来像について、「世代を超えてつながる魅力と居心地の良さを創出できるまち」がよい。「愛着と誇り」というのは、つまり魅力ということ。「世代を超えてつながる魅力」というのも持続的な次代につながる愛着と誇りになって、なおかつスリム化することで居心地の良さをこれから創出していくということ。	・前回の委員会のとおり、こちらについても仮案ということでお示ししますが、今後地域別構想を検討する中で、こちらの全体構想における将来都市像にフィードバックし修正することも念頭に置いています。	
3	将来像について、特に山と川と緑のネットワークを生かした、山に近い、水もきれいで、自然豊かなところを強調し、さらに世代を超えてという視点を織り込むと、とても加茂らしいビジョンが描ける。		
4	あまりに抽象的な内容であるため、少し踏み込んだ形になるといい。世代を超えてなどのフレーズがあると印象としては変わってくる。		
5	都市づくりの目標について、一番目に「コンパクトなまちづくり」を記載するよりは、自然環境を前面に上げた方がよい。	自然環境については、将来像に記載している「愛着と誇り」を育むために、保全や活用を図ることは重要な観点ですが、都市計画マスタープランとしては、人口減少、少子高齢化に対応したまちづくりが最重要課題として認識しており、「コンパクトなまちづくり」を一番目に記載します。	
6	「交通体系の整備方針図」の整備検討路線の二重線があるが、その二重線の国道403号バイパスの結節点辺りの市有地について、土地利用の方向性を検討して欲しい。	地域別構想の下条地域において、未利用地の活用によって、交流を促進することを課題として設定しました。土地利用の方向性については、今後個別施策等で検討することになります。	
7	土地利用の方針において、例えば公共施設が無くなるのが決定したものについては、解体や再利用などの使用用途を定めて、その方針に向かっていくというような計画というものは、ここに入れられるものなのか。それとももっと細かいところで言及されるか。	公共施設アクションプランで具体的などころをお示しする部分になります。	

8	<p>農村集落ゾーンというのは、ここに集約するという意味になるか、例えば大谷は大部分が農業振興ゾーンだがそれらの地域を集落ゾーンに集約が利くというイメージなのか。</p> <p>農業振興ゾーンと農村集落ゾーンの違いについて説明書きがあった方がよい。</p>	<p>P96 にそれぞれ以下の説明書きを追加しました。</p> <p>農村集落ゾーン：農村集落ゾーンは、用途地域外（白地地域）でまとまった集落が形成されているエリアに設定します。</p> <p>農業振興ゾーン：農業振興ゾーンは、農業振興地域の整備に関する法律において農用地域に指定され、一団の優良農地としての土地利用がなされている範囲を基本に設定しますが、一部には既存集落が含まれます。</p>	別紙 2
9	<p>公園は加茂市内で現状、街区公園と総合公園しかない中で、将来的に近隣公園や地区公園の規模の公園をまちに組み込んでいくかというのは、都市の開発にとっても大きな要素。やれるかどうかははっきり言えないが、できるかもしれない余地はあった方がいいのではないか。</p>	<p>明記は難しいと考えます。ただし、公共施設の統廃合によってできた土地の利用方法の一つとして検討することになるだろうと思います。</p>	
10	<p>粟ヶ岳の位置が違うのではないか。また、高館山はあまりメジャーではないが、ここに載っている理由はあるか。</p>	<p>粟ヶ岳の位置は修正しました。高館山については、下条川の上流部の山としてそのまま明示することとします。</p>	
11	<p>103 ページの交通体系の整備方針図の印象で見ると、縦軸が非常に弱く見える。加茂から流出して外に出るイメージが強い。そのため県道長岡栃尾巻線から国道 290 号まで青線を延長できないか。そのことによりまちの内外に交通の流れを形成していくという戦略性を持っていいのではないか。</p>	<p>広域幹線・主要幹線・幹線道路の3つで市域の動脈的な役割を担っていると考えていますので、修正は行わないこととします。</p>	
12	<p>93 ページの商店街と河川軸のイメージについて、現状と変わっていないイメージである。加茂山とまちなかと加茂川を一体的に表現することで、イメージができるのではないか。</p>	<p>加茂山と加茂川、商店街、加茂駅一体の将来都市像をイメージしたイラストを作成しました。</p> <p>商店街や加茂川、集落交流拠点それぞれのイラストについては、自動運転やドローンによるスマート農業等のイラストを追加しました。</p>	

## 意見対応表No.1-4

(原案)

## 1. 将来都市像

前章の「都市づくりの課題」や加茂市総合計画の将来像（「笑顔あふれるまち 加茂」）を踏まえ、加茂市の目指す「将来都市像」を以下のように定めます。

【加茂市の将来都市像】

愛着と誇りにあふれ、  
居心地よく笑顔になれるまち 加茂

加茂市は、人口減少・少子高齢化などの社会情勢の変化に対応し、いつまでも安全・安心で快適に暮らし続けることができる持続可能な都市を目指し、コンパクトなまちづくりを推進します。

また、加茂駅周辺では、市民や地元事業者が主体となったエリアプラットフォームを構築し、都市の活気と価値を高める、住む人・来る人が歩いて楽しいウォーカブルなまちづくりを推進します。

さらに、加茂市が誇る山や川などの自然環境、北越の小京都と称される歴史、これまで受け継がれてきた文化や景観などの美しい郷土に市民が愛着と誇りを持てるまちづくりを推進します。

これにより、市民が生活するまちが明るく楽しい雰囲気であふれた「居心地よく笑顔になれるまち」を目指します。



(当初案に対する第5回策定委員会での意見)

- ・ 財政が厳しい中で持続可能がポイント
- ・ 持続可能＝次世代につながるまちに
- ・ 抽象的なフレーズすぎる

(修正案)

【加茂市の将来都市像 (案)】

愛着と誇りを次代へつなぐ  
居心地よく笑顔あふれるまち 加茂

- ・ 意見を受け、次世代を連想する言葉を挿入
- ・ 次(世)代と時代の掛詞とした
- ・ 後段は総合計画の将来像と同じ文言に修正

加茂市都市計画マスタープラン

区 分	内 容
<p>工業ゾーン 凡例 【  】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 工業地においては、生産活動を妨げるおそれのある用途の混在を防止するとともに、周辺の住環境への影響に配慮した道路や緑地などの都市基盤を整備します。</li> <li>● 工業地においては、若者の多様な働き場を確保するため、遊休地や空き店舗などへの企業の立地を誘導します。</li> <li>● 須田地区においては、加茂市の新たな産業を担う基盤として、用地の新規拡大も含めた整備を推進します。</li> </ul>  <p>▲須田工業団地</p>
<p>農村集落ゾーン 凡例 【  】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 集落地については、適切な開発の規制・誘導により、周辺環境と調和したゆとりのある住環境を維持するとともに、営農環境の維持、形成を図ります。</li> <li>● 空き家や空き地については、「空き家バンク」の活用などにより、空き家や空き地の適正管理及び有効利用を促進し、良好な住環境の形成を推進します。</li> </ul> <p>※農村集落ゾーンは、用途地域外（白地地域）でまとまった集落が形成されているエリアに設定します。</p>  <p>▲七谷地区の集落</p>
<p>農業振興ゾーン 凡例 【  】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 須田地区や西加茂地区・下条地区の一部及び山間部においては、優良農地を保全します。</li> <li>● 都市を取り巻く良好な農地を保全するため、担い手への農地の集積・集約化に向けた、地域計画及び農地中間管理事業を推進します。</li> <li>● 集落地と調和した良好な農地を保全するため、農業・農村の持つ多面的機能の保全活動に対する支援を図るとともに、用排水路などの生産基盤の適切な維持管理を行います。</li> <li>● 農地の保全と農作物の安定供給を図るため、遊休農地の利活用を推進するとともに、加茂市猟友会への有害鳥獣捕獲支援や農業者への被害防除支援及び環境整備による有害鳥獣被害の防止対策を行います。</li> </ul> <p>※農業振興ゾーンは、農業振興地域の整備に関する法律において農用地区域に指定され、一団の優良農地としての土地利用がなされている範囲を基本に設定しますが、一部には既存集落が含まれます。</p>  <p>▲西加茂地区の農地</p>

追加

追加